

羅針盤

小樽みらい会議会報



09

【小樽みらい会議事務局】
小樽市富岡1丁目25番15号

【発行責任者】
小樽みらい会議 代表

としや
はざま俊哉

皆様、その後お変わりありませんか？日ごろ、小樽市政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。私の2期目の任期は残すところ1年となりました。

今年は6月後半から暑い日が続き、市内でも熱中症による救急搬送が相次ぎました。このため、民間事業者の協力をいただき、暑さをしのぐ場所として市内54か所をクーリングシェルター（暑熱避難施設）に指定いたしました。市民の皆様を暑さから守る温暖化対策は本市にとりましても重要な課題の一つとして考えております。

また、気候変動の影響は夏だけではなく、冬の降雪状況にも表れています。特に、寒気と寒気の間に暖気が入り込むことによって、路盤が崩れ、これまで以上に冬期間の道路管理が難しくなっています。このため、より効率的な除排雪に取り組んでまいります。

□歴史を生かしたまちづくり

「人口15、16万人の街並が山腹に階段状に這い上がった港街で、広大な北海道から集まってきた物産がそこからまた内地へ出て行く 謂わば北海道の心臓みたいな都会である」

これは作家小林多喜二の随筆「故郷の顔」の一節で、多喜二は当時の小樽を「北海道の心臓」と表現しました。

本市は2月4日に、「北海道の心臓と呼ばれたまち・小樽」で日本遺産に認定され、京都二条城で阿部俊子文部科学大臣から認定書を授与いただきました(写真)。

「日本遺産」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するので、平成27年度に創設されました。

旧手宮鉄道施設や旧日本郵船株式会社小樽支店などを日本遺産の構成文化財としていますが、日本遺産とは、個々の遺産を「点」として指定・保存するものではなく、点在する遺産を「面」として活用・保存する

もので、これによって地域の活性化を図ることを目的としています。

また、7月30日には、北海道で初めてとなる「歴史まちづくり計画」が国から認定を受けました。小樽運河などが含まれるエリアを重点区域とし、歴史的建造物の保存修理に国から補助が受けられるもので、これにより小樽らしい歴史と文化を後世に継承し、併せて、文化、経済、観光の好循環を実現し、地域のブランド力をさらに高めたいと考えています。



□みなと観光

昨年4月に国の直轄事業として進められてきた小樽港第3号ふ頭の大型クルーズ船対応の岸壁の竣工によって、小樽港に入港する全てのクルーズ船を第3号ふ頭で受け入れることが可能となりました。これにより、市内の中心部には新たな人の流れが生まれ、また、小樽港に停泊しているクルーズ船を見学に来る観光客も多く、寄港する豪華客船は新たな観光資源にもなっていると感じています。

昨年は32回の寄港があり、今年も同数の寄港が予定されています。入港した最大の船舶はパナマ船籍の「カーニバル・パノラマ」号で13万4千トンでした。

今後も、在京船社を中心にポートセールスを継続し、市街地に近い小樽港の「強み」をPRし、クルーズ客船の寄港誘致に努めてまいります。

8月1日には、第3号ふ頭基部で「小樽観光船ターミナル」を開業しました(写真)。将来的には栈橋の整備によって、海上遊覧船の発着をここに集約する計

画としています。現在は、この隣接地にイベントなどが開催できる広場を整備中です。2階には多目的ホールを設けましたので、市民の皆様には催事などにご利用いただきたいと思います。



□小樽観光とオーバーツーリズム問題

令和6年度の小樽市における観光入込客数は、7年ぶりに800万人を超え、806万8800人となりました。また、宿泊客数は98万3200人で、統計開始以来最高となりました。

その背景としては、全国的にも訪日外国人観光客が過去最高を記録したことや、この間、市内に宿泊施設が増加したことなどが挙げられます。これまで課題とされた「通過型観光」から「滞在型観光」へと移行しつつあると感じています。

今年に入ってから、重要文化財旧日本郵船株式会社小樽支店が保存修理工事を終え、リニューアルオープンしたこと（写真）、似鳥浮世絵美術館や新たなホテルが開業したことなどにより、さらに多くの皆様にお越しいただけるものと期待しています。

また、小樽観光の「見える化」や「DX化」を進めるため、観光客のスマートフォンのデータを活用した動態調査を実施しており、これにより、持続性のある小樽観光を目指し、より効果的な戦略を進めてまいり

ます。

一方、中国の春節にあたる2月上旬を中心に、路線バスの天狗山線や祝津線では地域の住民の皆様が乗車できない事態が発生し、船見坂やJR朝里駅周辺などには多くの観光客が押し寄せました。

このため、2月10日に「小樽市オーバーツーリズム対策連絡協議会」を発足しました。

観光客が増えることは本市にとっては歓迎すべきことですが、観光客の受け入れと市民生活の環境保持の両立を図る必要があります。現在、この冬に備えて、観光客の分散対策など協議会で議論を重ねています。

加えて、来年4月から導入する一泊200円の「宿泊税」を対策に活用することも今後、検討してまいります。



□終わりに

国立社会保障人口問題研究所の推計では、2050年には本市の人口が半減するとされています。毎年、およそ2000人ずつ減少する傾向が続いており、特に、少子化が顕著です。移住施策など人口減少を抑制する対策を講じつつ、人口規模に見合った効率的なまちづくりと、子育て支援策の充実など少子化対策を着実に進めていくことで本市の持続力を堅持してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

小樽みらい会議

市政報告・講演会のご案内

日時:2025年10月3日(金)18:00~

場所:小樽経済センター7階

主催:小樽みらい会議

お問合せ:TEL.090-5957-5772
(担当 高橋)

第1部 市政報告

小樽みらい会議 代表 迫 俊哉

第2部 講演会

「地域貢献のスタイル
~心を奏でる
小樽の暮らし~」

(株)北一硝子

代表取締役 浅原 富希子 氏

参加
無料